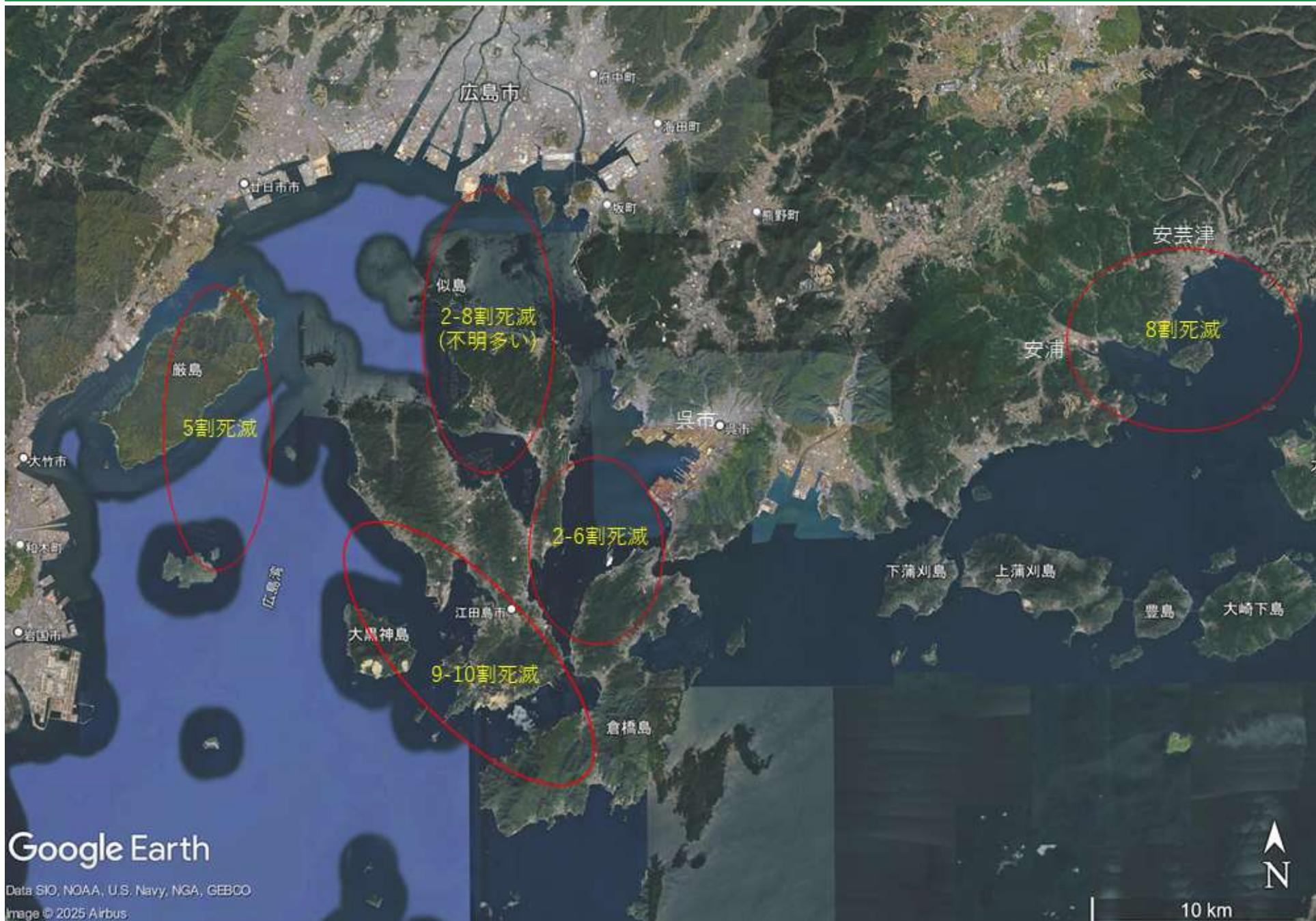


# 呉の牡蠣の死滅問題に関する リモートセンシング解析 —第1報 水温とChl-a分布特性—

2025/11/13

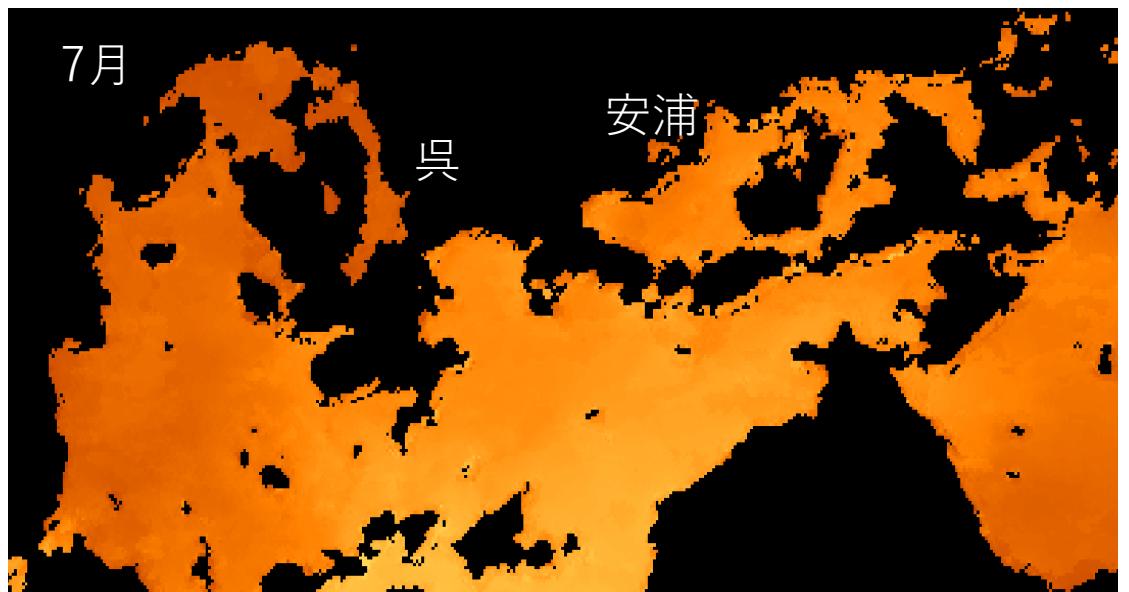
作野 裕司  
(広島大学大学院先進理工系科学研究科)  
[sakuno@hiroshima-u.ac.jp](mailto:sakuno@hiroshima-u.ac.jp)

# 広島～呉における牡蠣の死滅状態概要（10/29時点、牡蠣業者への聞き取りによる）



## <概要>

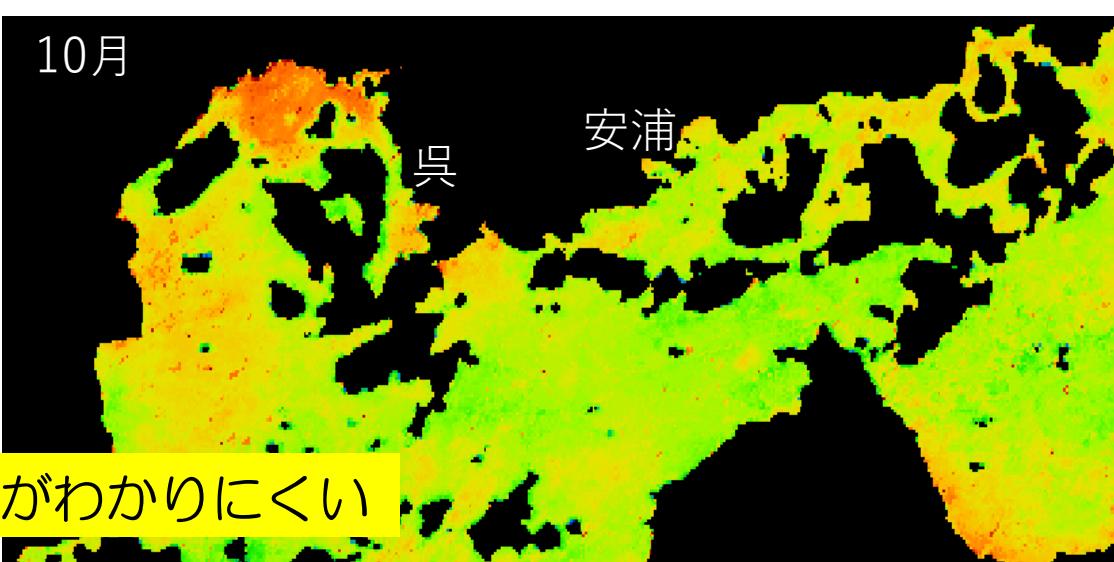
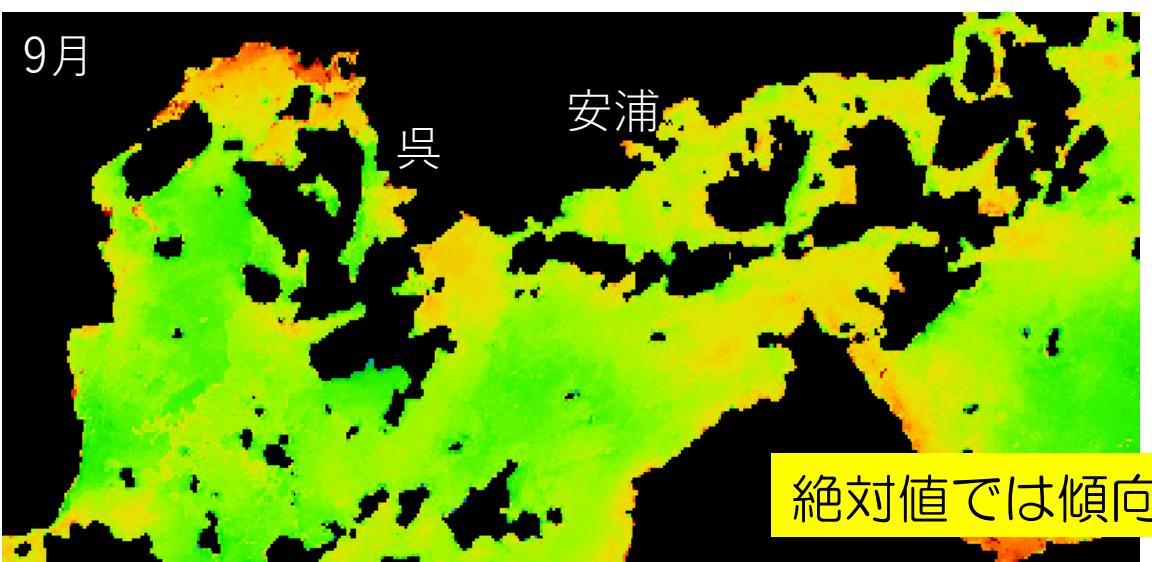
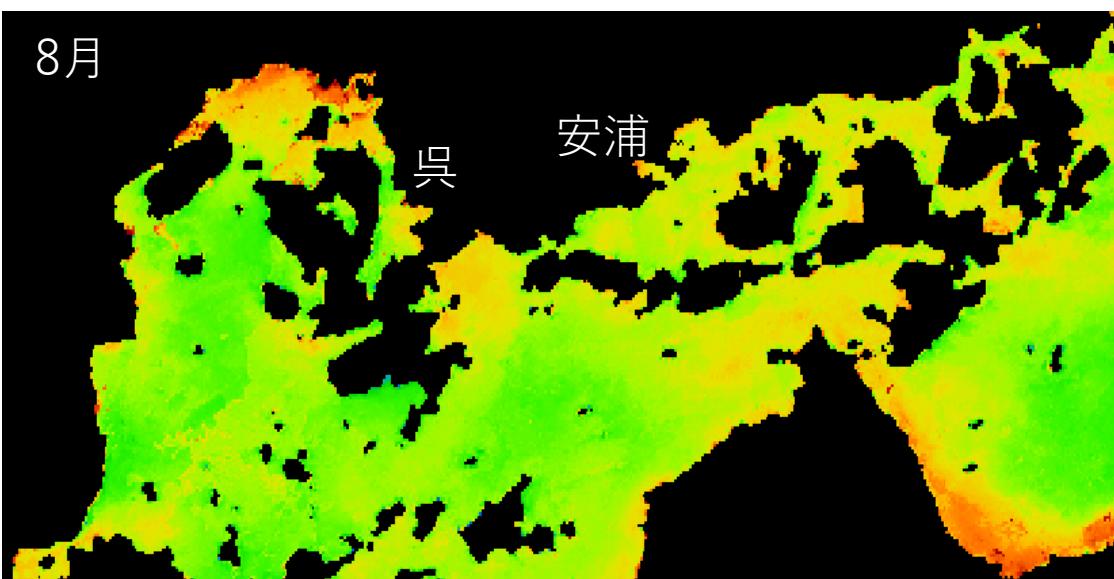
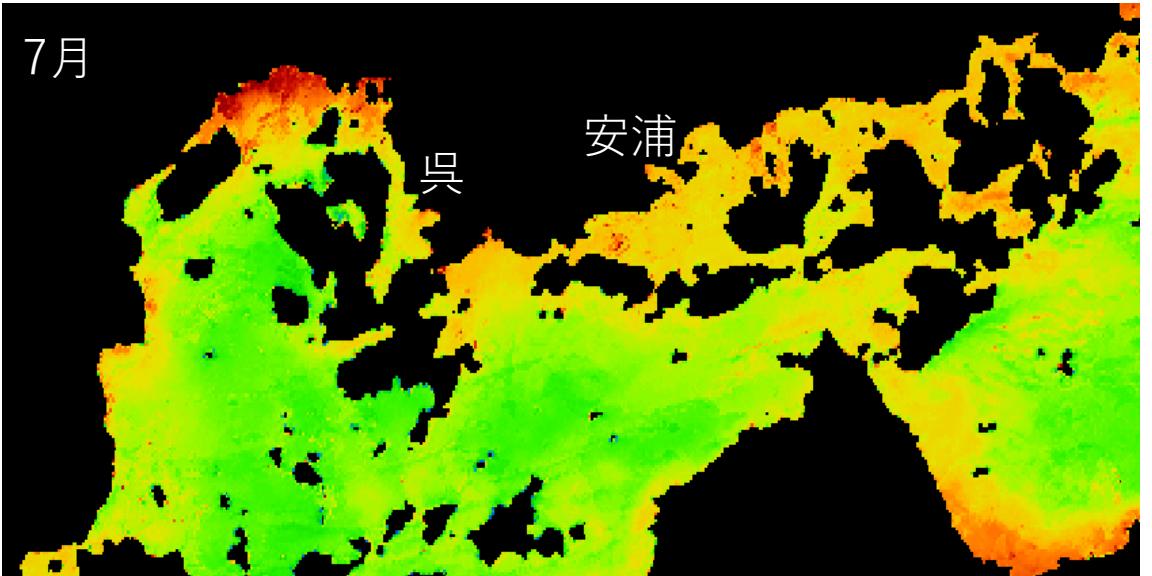
- ・広島湾より呉沖の方が牡蠣の死滅率は高い。
- ・広島湾南部でも死滅率が高い。
- ・地域によって、被害状況が異なるようだ。
- ・呉沖では一部赤潮も発生している。
- ・死滅の原因は10月末時点では不明。

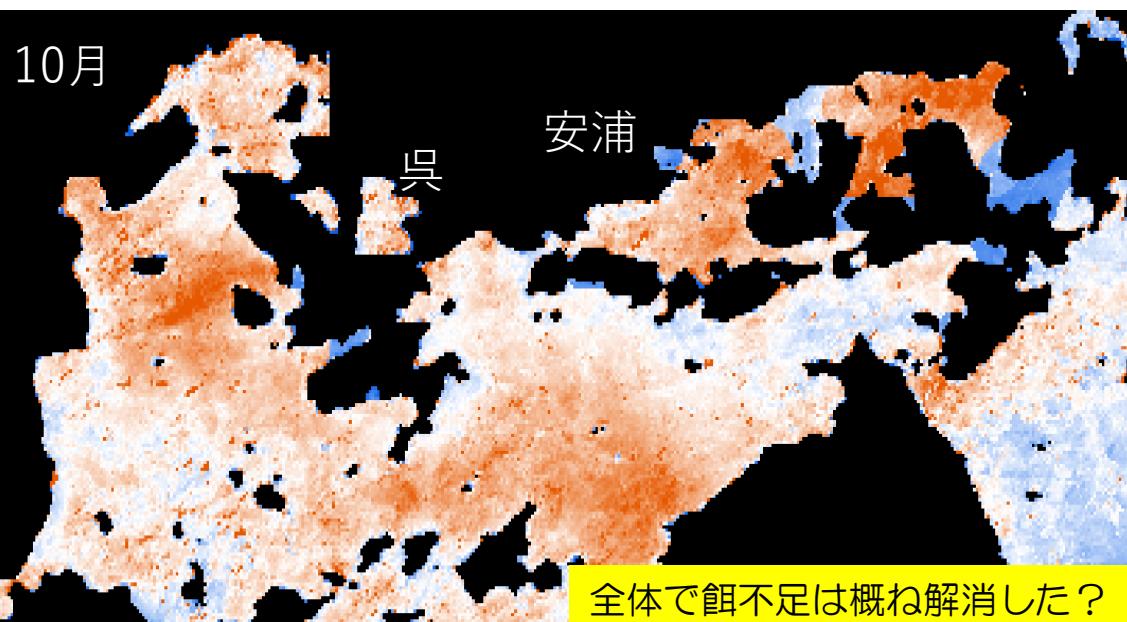
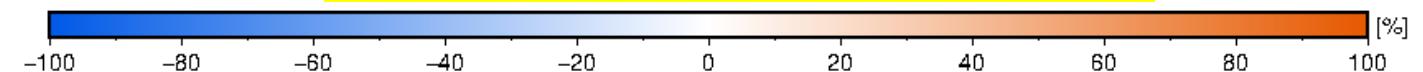
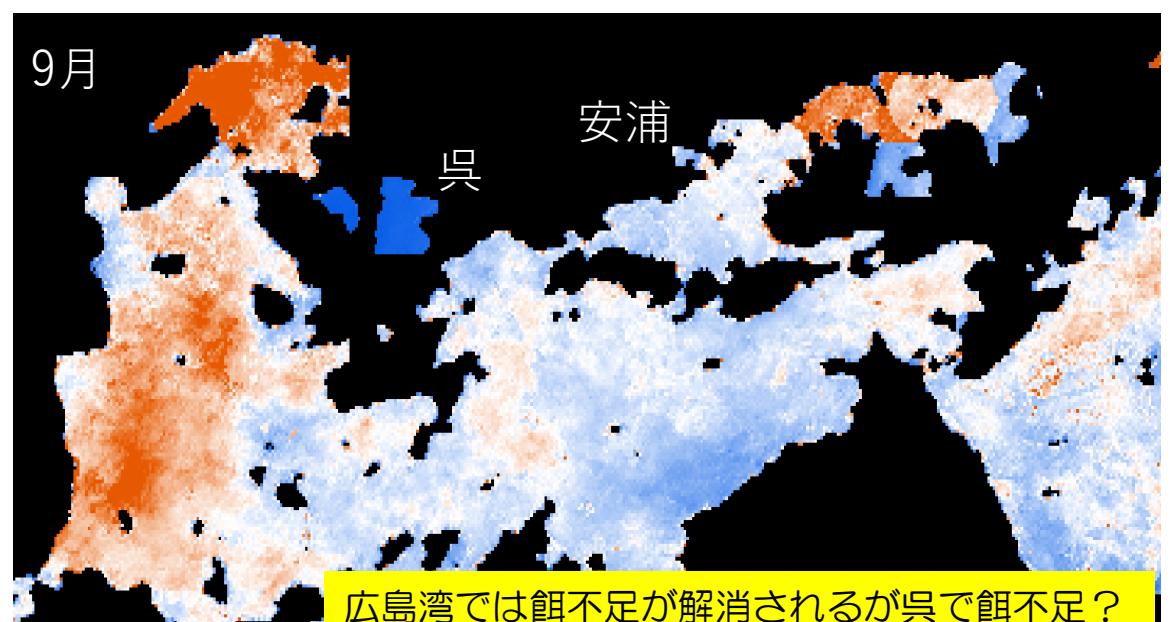
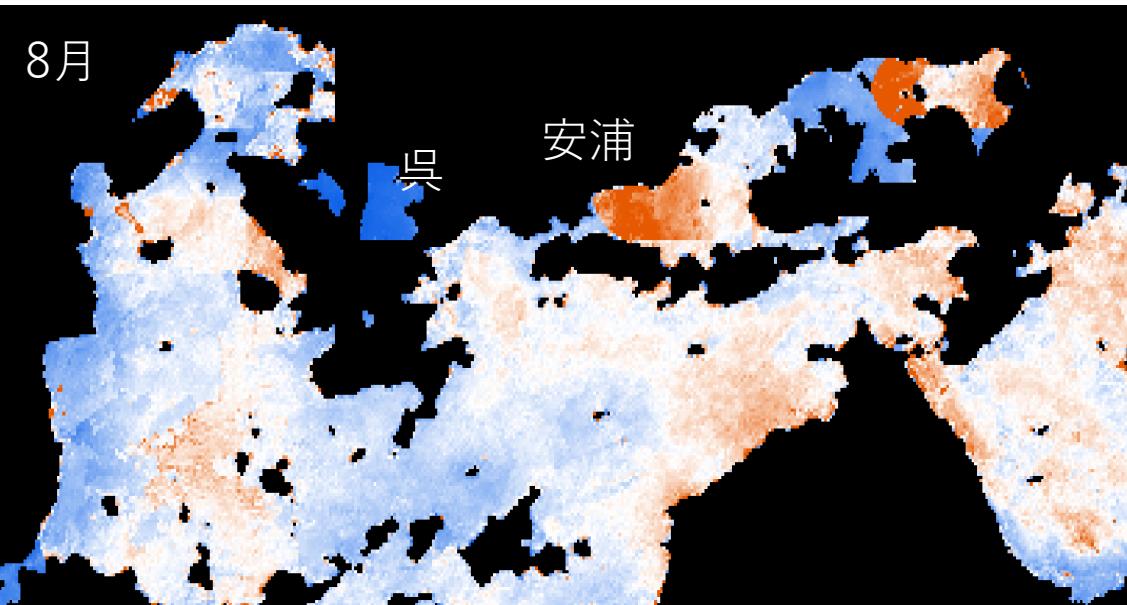
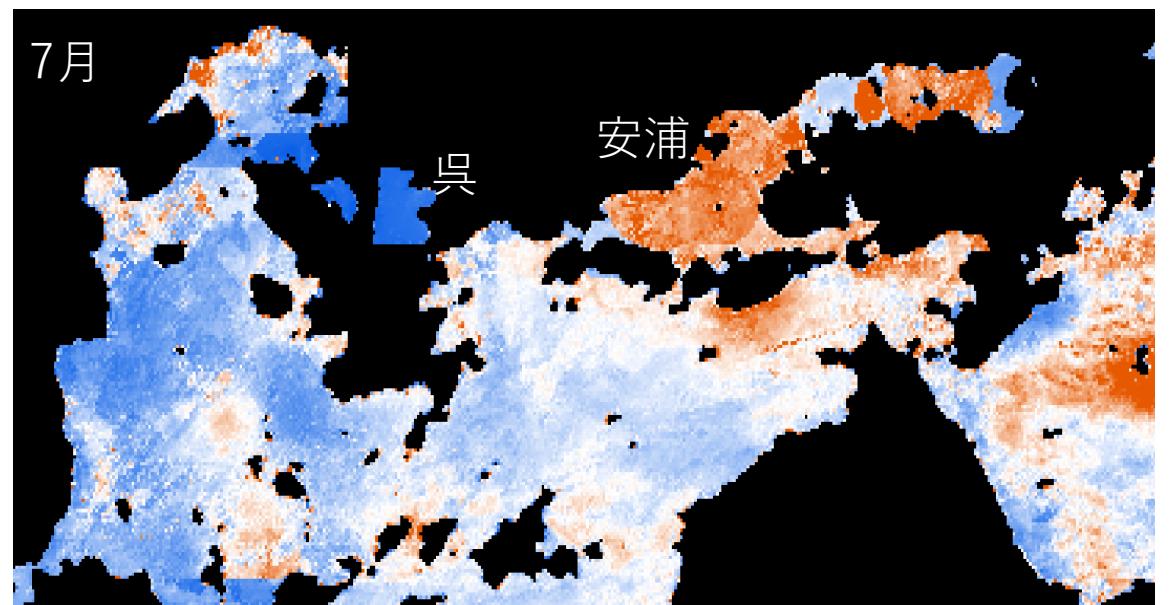


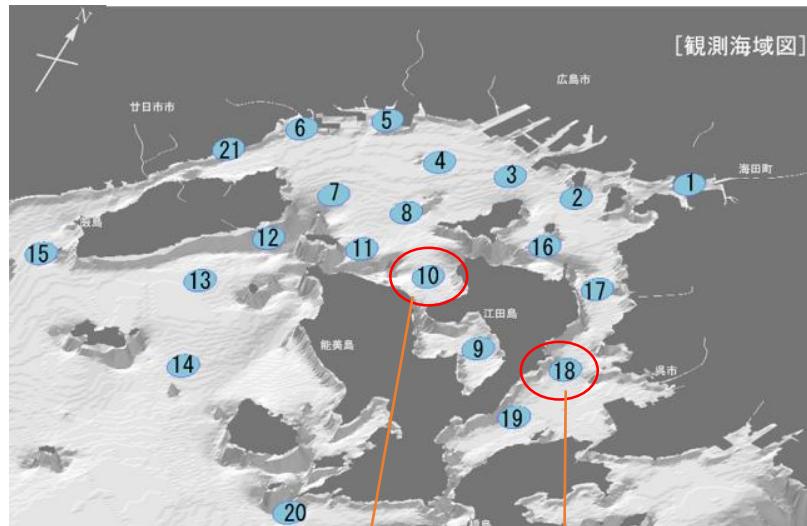
絶対値では傾向がわかりにくい







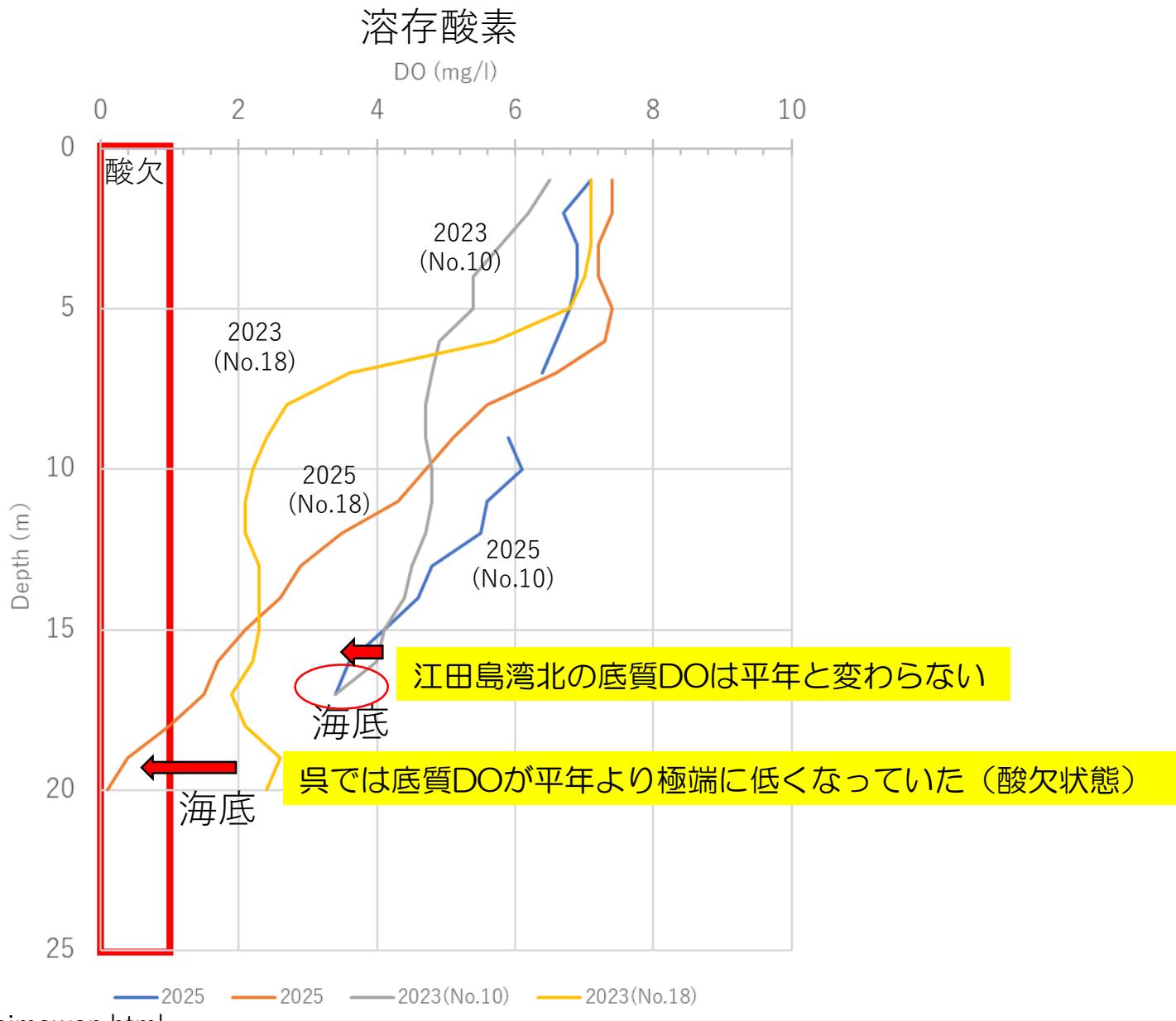




江田島湾北 呉沖

調査日  
2023/9/12-13  
2025/9/2-3  
※2024年9月調査なし

9月に呉沖の海底が無酸素状態！



- ・牡蠣の死滅率は養殖業者の聞き取りによると10月末時点で広島湾（5割程度）と比較して呉沖（8－9割）程度であり、地域差がある。
- ・広島湾～呉沖の衛星水温は、7月～10月では例年と比較して全体に2－3°C高い傾向がある。
- ・7月～10月植物プランクトン量（牡蠣の餌）の指標であるChl-aは7月～8月は例年より少ない。9月に入り広島湾西部は回復（増加）。10月は全域で回復（増加）
- ・実測による調査で、9月初旬に呉沖の海底が酸欠（DO低下）になっていたことがわかる。